資料1－1

文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」について

○本研究は、平成25年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果等を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童生徒の取組を分析するものである。

○保護者に対する調査の結果を用い、家庭状況と学力の関係をナショナル・サンプルによって分析した研究は、文部科学省として初。

＊ 文部科学省の委託により国立大学法人お茶の水女子大学（代表：耳塚寛明 理事・副学長（教授））が分析

平成26年3月
国立大学法人お茶の水女子大学

調査の概要

- 保護者に対する調査の概要
  - 調査対象 ： 抽出した公立学校において、本体調査を実施した児童生徒の保護者

	保護者		（参考）学校	
	対象数	有効回答数（率）*	対象数	有効回答数（率）**
小学校	16,908	14,383（85.1%）	429	391（91.1%）
中学校	30,054	25,598（85.2%）	410	387（94.4%）

- ＊ 児童生徒の結果と結合できる保護者の回答数
- ** 1人以上の保護者が有効回答だった学校数

- 調査時期： 平成25年5月下旬～6月下旬
- 調査内容： 子供への接し方、子供の教育に対する考え方、教育費等

- ウェイトづけ
  - 全国レベルでの推定を可能としている →第8章

報告書の構成

調査の概要
序章　研究計画と本報告書の構成

＜第1部＞　統計的分析

第1章　家庭の社会経済的背景（SES）の尺度構成

第2章　家庭環境と子どもの学力
（1）家庭の教育投資・保護者の意識等と子どもの学力
（2）保護者の関与・家庭の社会経済的背景・子どもの学力

第3章　社会経済的背景と子どもの学力
（1）家庭の社会経済的背景による学力格差　－教科別・問題別・学校段階別の分析－
（2）地域の社会経済的背景による学力格差

第4章　家庭の社会経済的背景による不利の克服
（1）社会経済的背景別にみた、学力に対する学習の効果に関する分析
（2）学校内学力格差が小さい学校の取組

第5章　児童生徒の意識・行動及び学校での学習指導と学力
－不利を克服している児童生徒に着目して－

＜第2部＞　事例研究

第6章　高い成果を上げている学校の抽出

第7章　高い成果を上げている学校　－事例研究－

＜第3部＞　補論

第8章　ウェイトづけ

第9章　学校の地域特性について

第10章　高い成果を上げている学校、教育委員会の訪問レポート

第11章　保護者調査単純集計結果

1　家庭の社会経済的背景（SES）と児童生徒の学力の関係

	小6				中3			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
Lowest	53.9	39.9	68.6	47.7	70.7	59.8	54.4	31.5
Lower Middle	60.1	46.1	75.2	55.1	75.2	66.0	62.0	38.8
Upper Middle	63.9	51.4	79.2	60.3	78.6	70.3	67.5	44.9
Highest	72.7	60.0	85.4	70.3	83.6	76.7	75.5	55.4

- 家庭の社会経済的背景(SES)が高い児童生徒のほうが、各教科の平均正答率が高い傾向　→第2章　図表2-1-68
  - 家庭の社会経済的背景（SES）
    - 保護者に対する調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標。当該指標を四等分し、Highest SES、Upper middle SES、Lower middle SES、Lowest SESに分割して分析　→第1章

1-1　家庭環境と児童生徒の学力

学校外教育費支出と学力

	小6					中3				
	国語A	国語B	算数A	算数B	%	国語A	国語B	数学A	数学B	%
支出はまったくない	53.4	39.6	67.9	48.0	13.2	71.6	61.5	54.1	32.9	16.5
5千円未満	58.8	44.7	74.4	54.7	14.0	75.4	66.8	59.2	38.3	6.4
5千円以上1万円未満	61.3	47.6	76.2	56.4	23.5	77.5	69.5	63.5	42.4	12.4
1万円以上1万5千円未満	63.2	50.6	78.0	59.0	17.2	76.8	67.2	63.9	41.0	9.2
1万5千円以上2万円未満	64.0	52.0	79.5	60.9	11.0	75.5	66.6	64.4	41.3	10.5
2万円以上2万5千円未満	66.8	54.2	80.6	62.9	7.3	76.3	66.6	65.0	41.5	13.1
2万5千円以上3万円未満	69.2	56.7	84.2	64.9	4.5	77.1	68.0	66.9	44.2	12.7
3万円以上5万円未満	74.2	61.3	85.1	70.6	5.6	79.6	71.8	69.7	47.6	16.4
5万円以上	79.7	63.8	88.9	76.2	3.9	79.5	73.0	70.3	48.2	2.8
合計	62.7	49.4	77.2	58.5	100.0	76.3	67.3	63.5	41.4	100.0

- SESと学力の関係から推測されるように、世帯収入が多いほど、また父母の学歴が高いほど、児童生徒の学力は高い
  →第2章　図表2-1-65～67
- 学校外教育費支出と学力との関係は強く、学校外教育費支出が多い家庭ほど子どもの学力も高い（上表）。世帯収入が多くなるにつれ学校外教育支出も多くなる傾向がある　→第2章　図表2-1-1～4

1-2　家庭の社会経済的背景と学力の関係

- 教科や問題の違いを問わず、小学校・中学校の両方でSESが高い保護者の子どもほど学力テストの正答率が高い傾向　→第3章
- 中学校に比べ小学校でSESの影響力が強く認められた　→第3章
- SESが子どもの学力に影響を与える経路には、
  ①保護者の社会経済的な背景が直接的に影響する経路と、
  ②保護者の教育期待や子どもの学習時間を媒介した間接的な経路の双方がある
  →第3章　図表3-1-5～8

1-3　保護者の意識や関与と児童生徒の学力

- 保護者の関与や意識は、児童生徒の学力と相関が大きい。以下のような保護者の子どもで、学力が高い傾向　→第2章（1）
  - 「子どもが決まった時刻に起きるよう（起こすよう）にしている」「子どもを決まった時刻に寝かせるようにしている」「毎日子どもに朝食を食べさせている」
  - 「自分でできることは自分でさせている」「子どものプライバシーを尊重している」「子どものよいところをほめるなどして自信を持たせるようにしている」
  - 本や新聞を読むことに関する働きかけは、子どもの学力と非常に強い関係が見られる
  - 子どもに高い学歴を期待する保護者の子どもほど学力が高い

1-3　保護者の意識や関与と児童生徒の学力（続き）

- 保護者の意識や関与の仕方は次のように分類される　→第2章（2）
  - **読書活動**　小さい頃絵本を読み聞かせした
    子どもに本や新聞を読むようにすすめている　等
  - **生活習慣**　決まった時刻に寝かせる
    毎日朝食を食べさせている　等
  - **子どもとの信頼関係・コミュニケーション**
    学校での出来事について話を聞く　等
  - **文化的活動**　子どもと美術館や劇場によくいく
    博物館や科学館によくいく
  - **勉強への働きかけ**　ふだん子どもの勉強をみている　等

1-3　保護者の意識や関与と児童生徒の学力（続き）

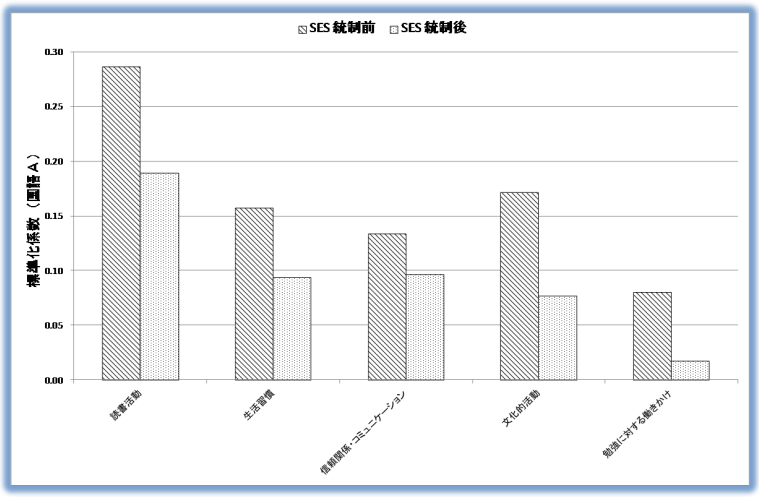
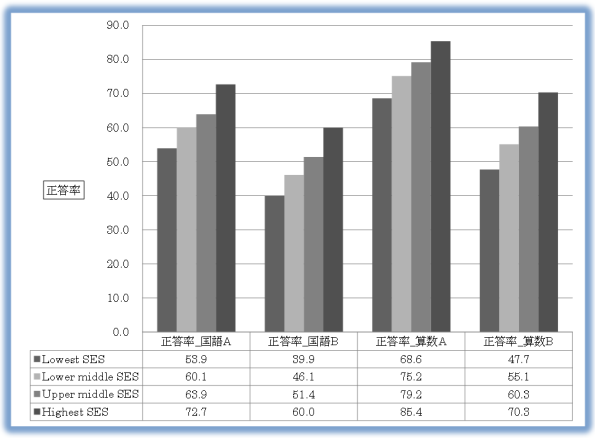


図　保護者の関与と学力（国語A）の関連（小6）

数値は、重回帰分析によるβ。数値が大きいほど学力と関連。SES統制後に数値が小さくなる項目はSES統制前の数値が見かけ上の関連を示していたことを表す。

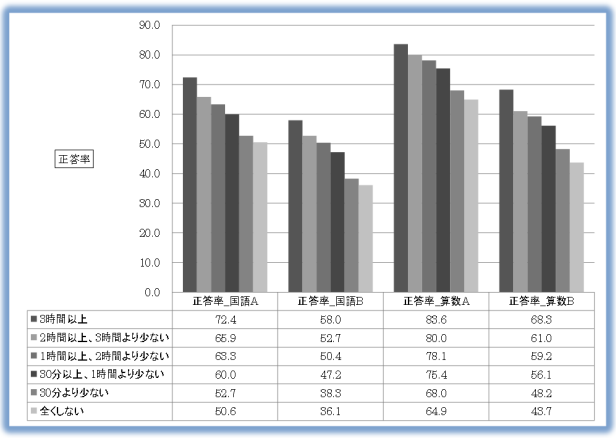
- 家庭における読書活動、生活習慣に関する働きかけ、親子間のコミュニケーション、親子で行う文化的活動は、いずれも学力にプラスの影響力。とくに家庭における読書活動が子どもの学力に最も強い影響力を及ぼす。その影響力は中学校に比べ小学校で大きい　→第2章　図表2-2-7　図表2-2-11
- 上記の保護者の行動・関わり方はいずれもSESを統制すると学力への影響力が小さくなる。ただし読書活動の影響力はなお残る

2-1　不利な環境を克服している児童生徒　学習時間の効果



	正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
Lowest SES	53.9	39.9	68.6	47.7
Lower middle SES	60.1	46.1	75.2	55.1
Upper middle SES	63.9	51.4	79.2	60.3
Highest SES	72.7	60.0	85.4	70.3

SESと各正答率（小6）

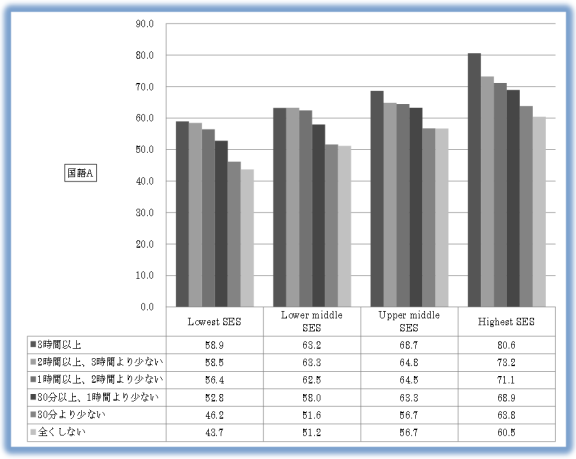


	正答率_国語A	正答率_国語B	正答率_算数A	正答率_算数B
3時間以上	72.4	58.0	83.6	68.3
2時間以上、3時間より少ない	65.9	52.7	80.0	61.0
1時間以上、2時間より少ない	63.3	50.4	78.1	59.2
30分以上、1時間より少ない	60.0	47.2	75.4	56.1
30分より少ない	52.7	38.3	68.0	48.2
全くしない	50.6	36.1	64.9	43.7

平日の学習時間と各正答率（小6）

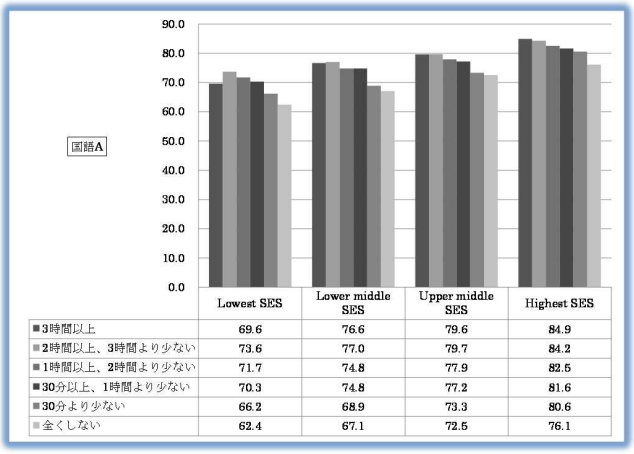
- 学力は児童生徒の社会経済的背景および学習時間の量によって規定される。SESが高いほど、また学習時間が長いほど学力が高い　→第4章（1）　図表4-1-1～4

2-1　不利な環境を克服している児童生徒　学習時間の効果（続き）



	Lowest SES	Lower middle SES	Upper middle SES	Highest SES
■3時間以上	58.9	63.2	68.7	80.6
■2時間以上、3時間より少ない	58.5	63.3	64.5	73.2
■1時間以上、2時間より少ない	56.4	62.5	64.5	71.1
■30分以上、1時間より少ない	52.8	58.0	63.3	68.9
■30分より少ない	46.2	51.6	56.7	63.8
■全くしない	43.7	51.2	56.7	60.5

SES別学習時間と平均正答率（小6、国語A）



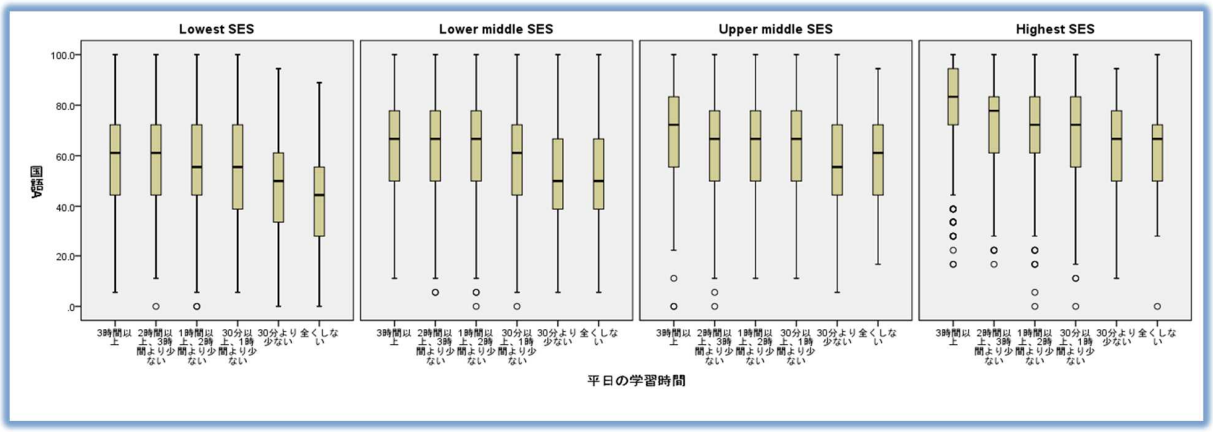
	Lowest SES	Lower middle SES	Upper middle SES	Highest SES
■3時間以上	69.6	76.6	79.6	84.9
■2時間以上、3時間より少ない	73.6	77.0	79.7	84.2
■1時間以上、2時間より少ない	71.7	74.8	77.9	82.5
■30分以上、1時間より少ない	70.3	74.8	77.2	81.6
■30分より少ない	66.2	68.9	73.3	80.6
■全くしない	62.4	67.1	72.5	76.1

SES別学習時間と平均正答率（中3、国語A）

- しかし学習時間の効果は限定的。社会経済的背景がLowest SESの児童生徒が「3時間以上」勉強して獲得する学力の平均値は、Highest SESで「全く勉強しない」児童生徒の学力の平均値よりも低い

→第4章（1）　図表4-1-5～12

2-1　不利な環境を克服している児童生徒　学習時間の効果（続き）



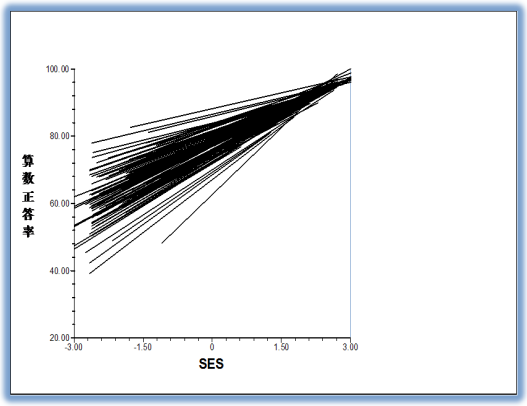
社会経済的背景別学習時間別学力の分布（小6、国語A、箱ひげ図）

- 前シートは平均値に注目した議論であって、箱ひげ図を書いてみると、箱の重なりは大きい。学力は社会経済的背景に規定されつつも、学習時間の長さが高い学力の獲得に対して独立した効果を持っている　→第4章　図表4-1-13～20
- SESにかかわらず、宿題をする児童生徒ほど高い学力。社会経済的背景や学習時間とは別に、学習方法が独立して学力に与えるポジティブな効果である。→第4章　図表4-1-23～24

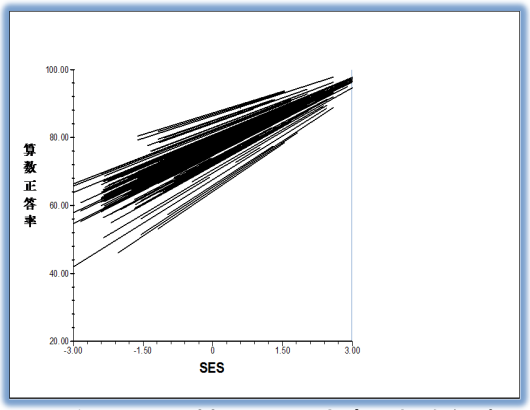
2-2　不利な環境を克服している児童生徒の特徴

- 不利な環境(Lowest SES)にもかかわらず、学力が上位1/4に入る児童生徒（学力A層）は、次のような特徴（小学校Lowest SESの17.3%、中学校では12.1%、算数B、数学B）　→第5章
  - 朝食等の生活習慣
    - （朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている/起きている、テレビ等を見る時間・テレビゲームをする時間が少ない）
  - 読書や読み聞かせ
    - （保護者が子どもに本や新聞を読むようにすすめている、子どもが小さい頃に絵本の読み聞かせをした、子供と一緒に図書館に行く）
  - 勉強や成績に関する会話・学歴期待・学校外教育投資
    - （保護者が子どもと勉強や成績のことについて話をする、保護者の高い学歴への期待、子どもへの教育投資額が多い）
  - 保護者自身の行動
    - （授業参観や運動会などの学校行事への参加）
  - 児童生徒の学習習慣と学校規則への態度
    - （家で自分で計画を立てて勉強している、学校の宿題をしている、学校の規則を守っている など）
  - 学校での学習指導
    - （自分の考え方を発表する機会が与えられている、家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図る　※小学校）

3-1　SESによる学力格差を抑え込んでいる学校の取組



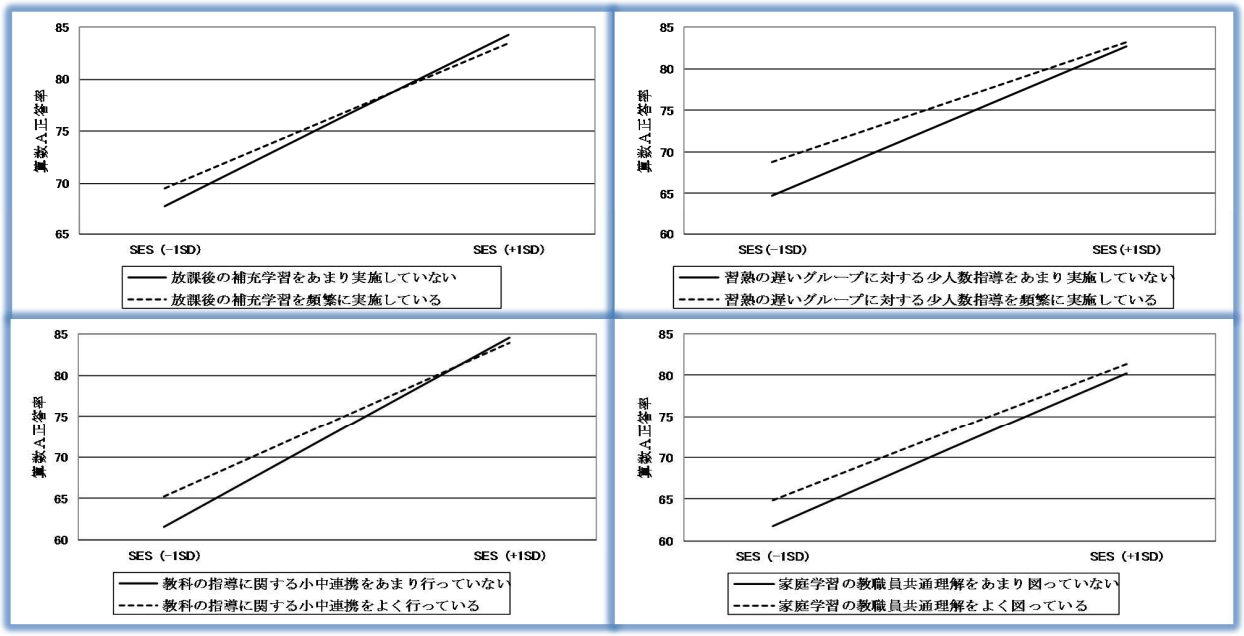
大都市・中核市における家庭の社会経済的背景(SES)による学校内学力格差



その他の市・町村における家庭の社会経済的背景(SES)による学校内学力格差

- 小6データに限定し、学力には算数A問題の正答率を用いた。4つの問題の中で、学校内のSESの傾き（各学校内で生徒の家庭の社会経済的背景が学力に及ぼす影響度）に最もばらつきがあった　→第4章（2）
- 回帰線の傾きがフラットに近いほど、学校内でのSESによる学力格差を抑え込んでいる学校を示す
- 大都市・中核市のほうが、その他の市町村に比べて、傾きの大きな学校が多い

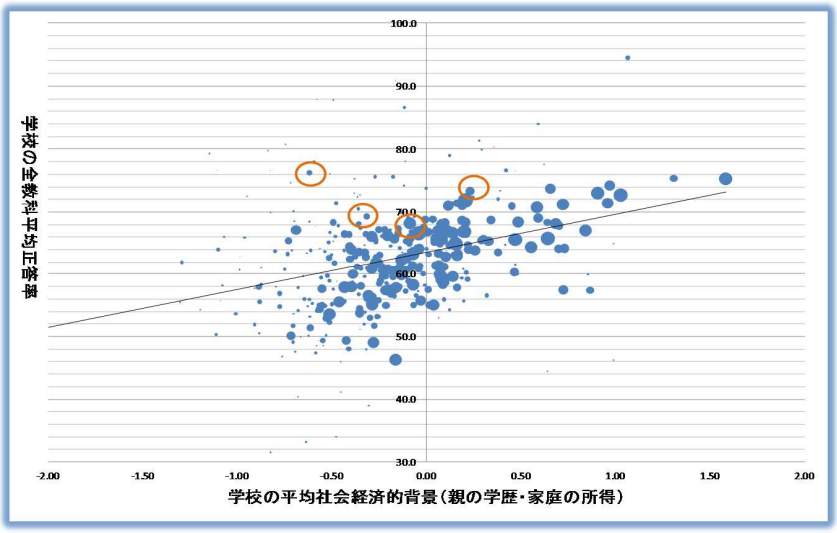
3-1　SESによる学力格差を抑え込んでいる学校の取組（続き）



家庭の社会経済的背景による学校内学力格差（大都市・中核市、小6、算数A）

- 傾きが小さいほど、学校内でのSESによる学力格差を抑え込む取組を示す
  →第4章（2）　図表4-2-11～14

3-2　SESから統計的に予測される学力を上回る「高い成果を上げている学校」の抽出（小学校）

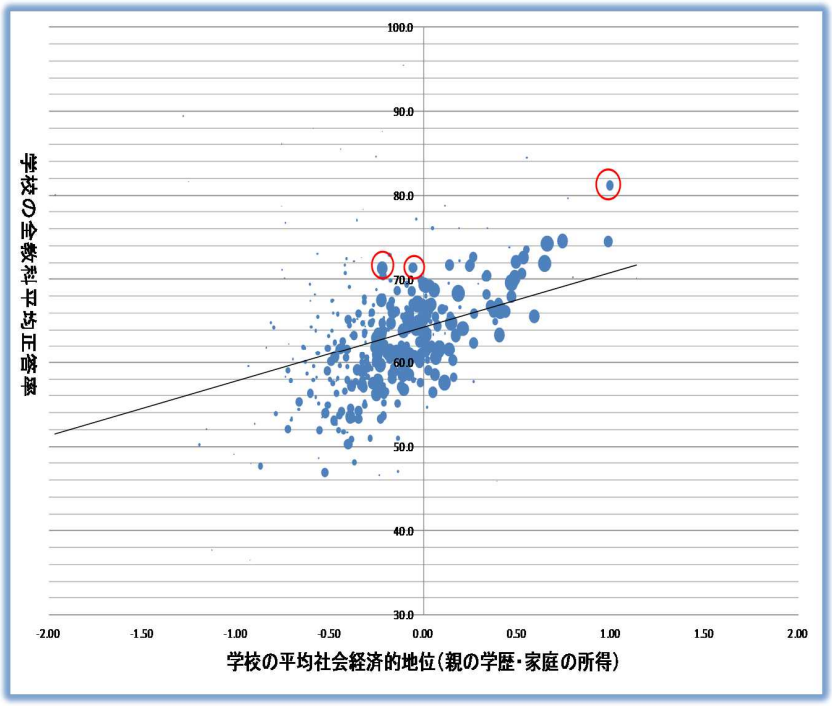


学校の平均SESと教科の平均正答率（小学校、算数A、学級数2以上）
→第6章

赤丸が第7章における訪問調査対象校

- 「高い成果を上げている学校」とは、同程度の社会経済的背景の児童生徒が通う学校と比較して、学校の（平均）学力が高い学校

3-2　SESから統計的に予測される学力を上回る「高い成果を上げている学校」の抽出（中学校）



学校の平均SESと教科の平均正答率（中学校、数学A、学級数2以上）

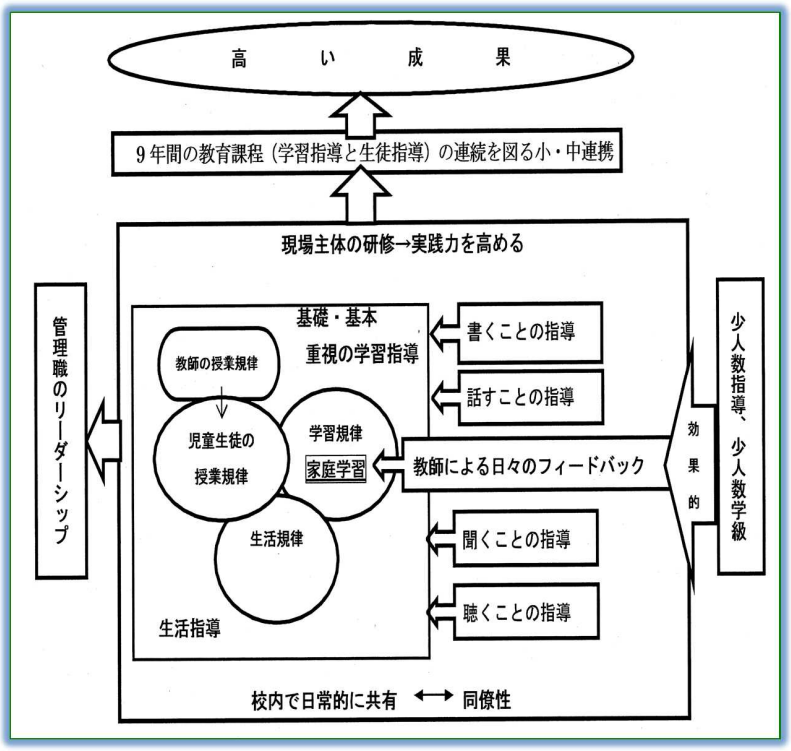
→第6章

赤丸が第7章における訪問調査対象校

3-3　高い成果を上げている学校訪問調査からみた特徴

- 3-2の統計的処理によって、児童生徒のSESから予測される学力を上回る成果を上げている学校を、小、中学校各4校抽出
- 訪問調査を、小学校4校、中学校3校実施（中学校1校は調査拒否）
- 学校および市教育委員会を訪問
- 調査時期　平成26年2月

3-3　高い成果を上げている学校 訪問調査からみた特徴（続き）



- 家庭学習の指導
- 管理職のリーダーシップと同僚性の構築
- 実践的な教員研修の重視
- 小中連携教育の推進、異学年交流の重視
- 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- 都道府県、市レベルの学力・学習調査の積極的な活用
- 基礎・基本の定着の重視と少人数指導、少人数学級の効果

→第7章、第10章

実施委員会

氏名	所属・職位
耳塚寛明	お茶の水女子大学理事・副学長（教授）
浜野隆	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授
冨士原紀絵	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授
中島ゆり	お茶の水女子大学総合学修支援センターリサーチフェロー
土屋隆裕	情報・システム研究機構統計数理研究所准教授
山田哲也	一橋大学大学院社会学研究科准教授
垂見裕子	早稲田大学高等研究所准教授
中西啓喜　＊	お茶の水女子大学文教育学部研究員

＊　研究補佐として参加

Mail to:
全般に関すること　耳塚　mimizuka.hiroaki@ocha.ac.jp
浜野　hamano.takashi@ocha.ac.jp
訪問調査　冨士原　fujiwara.kie@ocha.ac.jp